

# 未来 Watch

みらいウォッチ

生き抜く力にあふれた子どもたちを育むコミュニティー

私たちの役割は、

『誰も置き去りにしない』

という理念のもと、教育を支援することです。



LEAVE NO ONE BEHIND

## 編集後記

春を迎え、通常であれば、新しい旅立ちや出会いのあるウキウキする季節ですが、本年は新型コロナウイルスの感染拡大により重苦しい日々を過ごすこととなっています。特に、子どもたち、ご両親、そして教育の現場で、日々の状況の変化に対して、皆さんが様々な工夫をされながらこの困難な事態に立ち向かわれていることに心から敬意を表したいと思います。一日も早くこのような事態が終息し、子どもたちの元気な声が街中にあふれる日々が戻ってくることを願ってやみません。

## 【入会のご案内】

ニッケ教育研究所では、一般会員として活動趣旨にご賛同いただける方の入会を募集しています。詳しくは、下記アドレスより会員規約をご覧ください、入会申込書に記載してお申し込み下さい。生き抜く力（レジリエンス）にあふれた子どもたちを育むコミュニティーを、一緒につくってまいりましょう。

<https://forms.gle/pWVxdazdA6hVZEuz9>



ニッケ教育研究所の活動

『誰も置き去りにしない』

すべての子どもたちの無限の可能性を拓く教育の支援

ごあいさつ  
会報「未来 Watch」創刊にあたって

研究発表紹介  
学校制服が共感性に与える影響について

インフォメーション  
ニッケ教育研究所の名称について

創刊号



# 会報「未来 Watch」 創刊にあたって

一般社団法人ニッケ教育研究所  
理事長 楠本 景央

一般社団法人ニッケ教育研究所は、学校制服用の生地販売を通じて多くの教育現場と接点のある日本毛織株式会社により、すべての子どもたちの無限の可能性を拓く教育を支援するとの理念で2019年10月に設立されました。このたび、会報「未来Watch」を創刊することとなり、私どものこの活動にける思いをお伝えしたいと思います。

私が社会人になった1982年と比べると、世の中はどんどん進化しています。パソコン、インターネット、携帯電話・スマートフォンが普及し進化を続けており、人々の生活を変えてきました。現代では、当時では想像もつかなかった社会やビジネスが生まれてきています。今後も、人工知能（AI）、物の情報結合（IoT）、超高速通信（5G）という技術が世の中を変えていくことと思います。

技術の進化により、「3つの間（時間・空間・仲間）」は私たちが子どもの頃と現在とは大きく変化しており、現実（リアル）に加えて仮想（バーチャル）な「3つの間」を創り出しました。WEBやSNS等を使って、時間と距離を超えて世界中の多くの人たちと関係を築き、多くの知識を瞬時に得ることが可能になりました。このことは数多くの良い点を生み出しましたが、一方で新たなストレスや問題を生み出していることも事実で、このような技術の進化とどう向き合っていくのが重要であると考えます。

このような世の中において、子どもたちが自らの可能性を拓いていくためには、将来の夢を描き、恐れずに新しいことにチャレンジしていくことが必要です。すべてのチャレンジにおいて思

い通りの結果が得られるとは限りませんが、その結果をありのままに受け入れ「学び」とすることも重要な姿勢です。将来の夢の実現に向けて、必要な知識・技術を身に付け、それを使いこなせる体力を養い、達成まであきらめない心で努力することに大きな意味があると考えます。「心・技・体」を駆使しながら遭遇する困難や試練を乗り越える力こそ「生き抜く力（レジリエンス）」と考えます。

このように常に夢を描いてチャレンジしていくためには、子どもたちを取り巻く環境が肉体的にも精神的にも「安全・安心」の場であることが求められます。学校でも、家庭でも、地域でも、バーチャルなコミュニティにおいても、肉体も精神も傷つけられることのない「安全・安心」が確保されて初めて、個々人の自由な発想が受け入れられ、良き人間関係が築かれていくと思います。そして、そのような環境でこそ子どもたちが生き生き伸び伸びすごせるものと考えます。

子どもたちが生き生き伸び伸びすごせる環境づくりへ、私どもは経験的に学校制服の効用を感じていますが、科学的な調査や分析が必要であり、これらに取り組んでいきます。また、このような環境をつくるために、企業をはじめとしたコミュニティで何ができるのかを研究し発信していきたいと考えています。

「持続可能な開発目標（SDG s）」が提唱する「誰も置き去りにしない」を基本理念に、すべての子どもたちが持つ無限の可能性を拓く教育を支援していきたいと考えますので、皆様のご理解とご協力をいただきたく、よろしく願います。



《研究活動 顧問》  
**市川 祥子 氏**  
(いちかわ しょうこ)

甲子園大学心理学部現代応用心理学科助教、博士（学術）  
所属学会：日本社会心理学会、日本心理学会、  
日本繊維製品消費科学会、日本衣服学会

## ファッション・被服と着る側の心理

今日は何を着ようか、明日は何を着ていこうか——誰もが、こんなことを考えたことがあるのではないのでしょうか。また、着る服や身だしなみによって周囲からいろいろな影響を受けたり、その日の気分や行動までもが左右されてしまった経験があるかと思います。このようにファッション・被服には役割や効果があって、対人関係やコミュニケーションにさまざまな影響を与えることが分かっています。また、被服は子どもたちが自己を確

立しようとする発達段階において、重要な役割を担っているとされています。子どもたちは仲間と比較しながら、時には同調しながら自己の位置づけを明確にしていくと考えられているからです。

## 今後の展望

これまで、ファッション・被服への関心度に影響を与える要因や、被服の選択とそれを着る若者の心理や消費行動など、一貫してファッション・被服とそれを着る側の心理にフォーカスした研究を行ってきました。近年は、学校制服の着用・非着用が子どもたちの意識や行動傾向にどのような影響を与えるのかを主な研究テーマにしています。学校制服のメリット・デメリットを明らかにし、ニッケ教育研究所の活動を通して、学校環境や教育環境の改善、子どもたちのより良い人間関係形成のお役に立てればと思います。子どもを持つ親としても、今と未来を生きる子どもたちのために有意義な研究を進めていきたいと思っています。



《啓発活動 顧問》  
**勝本 孝夫 氏**  
(かつもと たかお)

元・大阪市立榎本小学校校長（鶴見区）  
元・大阪市立姫里小学校校長（西淀川区）

## 教育の現場で心掛けていたこと

新任の頃、教育現場の現実に悩んでいた時期に、先輩に教わった三つの教養は、今なお心から消えずに鮮明に蘇ってきます。一つ目は「赴任した学校を好きになるために校歌を覚える」ことです。校歌を歌うことで、その学校の“思い”や“魂”を感じることができるという意味でした。二つ目は「教師になるために掲げたロマン（理想）を見失ってはならない」ことです。現実の厳しい波を受けざるを得ない子どもたちがいるのに、教師自身が現実と戦わずして“子どもたちの未来を拓く”というロマンの実現はないと強く思いました。三つ目は「さま

ざまな事象を自分の問題と捉える」ことです。まず“自分が変わる”、周りを変えるのは難しいが自分を変えるのは簡単であるとの深い言葉でした。この三つの教養を胸に大阪市立の小学校7校で勤務し、一貫して「子ども第一」の教育を実践してきました。校長を務めた榎本小、姫里小では、教員生活で培ったものを土台に「誰も置き去りにしない」学校づくりに奮闘しました。

## 今後の活動への思い

長く教育現場に身を置いて痛感したのは、子どもたちを取り巻く環境において、課題解決するためには深い部分にまで踏み込んだ解決が為されなければならない、ということです。課題の根本要因は何か。ニッケ教育研究所の活動を通して、現場課題の解決に貢献したいと思っています。

学校制服が持つ力を科学的に解明し、誰もが分かるようにします。

そして、その効用を世の中に発信し、

生き抜く力にあふれた子どもたちの育成に役立てます。



研究活動 制服を科学する



学校制服のメリット・デメリットを解明します。

学校制服のメリット・デメリットを科学的なアプローチで明らかにし、それらを学校環境や教育現場の改善、子どもたちのより良い人間関係の形成に役立てます。

啓発活動



事例を通し、学校制服の効用を普及します。

研究活動で得た知見を基に学校制服の効用を世の中に発信し、子どもたちが等しく安心して元気に学べる環境づくりにつなげます。

生き抜く力を育むための働きかけを行います。

学校・家庭・地域との交流を深め、教育面での課題を共有し、連携・協働して子どもたちの健全な育成に貢献します。



ニッケ教育研究所の運営理念体系

使命

生き抜く力にあふれた子どもたちの育成

活動理念

可能性を拓き、人を育てる学校制服、その効用を科学的に解明、発信します  
誰も置き去りにしない、教育を支援し、未来を担う子どもたちの育成に貢献します  
さまざまな視点から教育の可能性を模索し、将来社会で輝く人材の輩出に貢献します

活動方針

子どもたちが生き生き伸び伸びすごせる環境づくり



生き抜く力（レジリエンス）にあふれた子どもたちの育成に貢献します。

基本理念

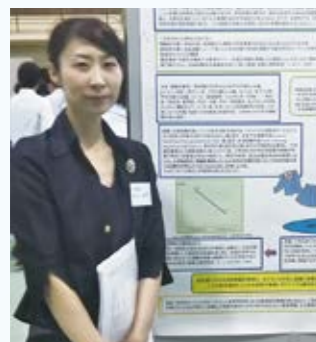
誰も置き去りにしない

LEAVE NO ONE BEHIND

すべての子どもたちには、大きく開花しようとする可能性が宿っています。その可能性を信じ、育むことは、大人たちの役割とも言えるでしょう。私たちは、SDGsが提唱する「誰も置き去りにしない」という考え方のもと、すべての子どもたちの無限の可能性を拓く教育の支援に努めます。

学校制服が共感性に与える影響について

～ 日本繊維製品消費科学会 2019年 年次大会より～



昨年6月29日・30日の2日間にわたり、一般社団法人日本繊維製品消費科学会 2019年 年次大会が奈良女子大学で開催されました。そこでは当法人の市川顧問（当時・ニッケ教育研究所準備室 顧問）が、「学校制服が共感性に与える影響」と題した研究発表を行いました。その概要をご紹介します。

研究目的は、「共感性がどのような環境で育つのかについて、児童期における学校制服の着用経験に着目し、その経験の有無が共感性に及ぼす影響を検討する」というものでした。ここで取り上げたい点が2つあります。第一に共感性についてです。共感性は、異なる背景を持つ人々が互いを理解し共存するために大切だと言われています。生き方が多様化

する時代にあって、共感性を育む環境についての研究は、とても意味のあることだと考えます。第二に学校制服の着用経験に着目した点です。衣服が画一化されることで、外見以外の面で自己と他者とを意識し区別できるようになることや、仲間意識・帰属意識を高めて他者に共感する状況が生まれやすくなるのが考えられるとされています。学校制服は没個性のイメージを持たれることがありますが、むしろしっかりとした自己をつくり、他者との違いを理解しながら、他者に共感する力を育む可能性があるということです。この新しい視点からの研究は、身近にある学校制服の存在意義を再認識する上で、とてもユニークで意味のあることだと考えます。

今回の研究の結果、小学校で学校制服の着用経験がある女子の場合、単なる他者への同情ではなく、他者と自己を切り離して捉えることができる、より理想的な形での共感性が高まる可能性が示唆されました。このテーマについては研究を継続し、その結果を適時ご紹介させていただく予定です。

Information

ニッケ教育研究所の名称について



ニッケ教育研究所という名称は、日本毛織株式会社の通称名称である「ニッケ」に由来します。

ニッケは、1896年に「ウールのニッケ」として誕生し、現在では衣生活、住環境、そしてライフサポートビジネス（介護・保育・キッズ・スポーツ等）にいたる幅広い分野で「健康」「快適」「安全」を提供する企業グループです。ウールの分野では長年にわたって学校制服向け生地製造・販売を手掛けていますが、学校や家庭、そして地域の声を聴く中で、学校制服が子どもたちに良い影響を与えていることを感じていました。しかし、科学的データに裏づけられた証拠はありませんでした。

一方、本来学校は子どもたちが学び合う場であるにもかかわらず、いじめ、不登校、学級崩壊などの問題を抱え、子どもたちが将来社会で輝くために大切な基礎の時代が脅かされています。昨今、学校制服がこれらの問題解決につながる

可能性があるという意見が出始めていることを受け、まずは学校制服を通じて子どもたち、そして教育現場の役に立ちたいとの思いから、ニッケは2019年10月に一般社団法人ニッケ教育研究所を設立しました。

私たちはこの思いを忘れずに、子どもたちが生き生き伸び伸びすごせる環境づくりに全力で取り組んでまいります。



一般社団法人ニッケ教育研究所 所長 橋本 立志